

## 【特別講演】

# 近代測量の黎明期と工部省 — その歴史的な意味を考える —

東京大学大学院工学系研究科

教授 清水 英範

### キーワード

近代測量, 工部省, 測量司, 工学寮, 工部大学校, 山尾庸三

### 講演概要

明治3(1870)年, 殖産興業の推進とそれを先導する鉄道, 鉱山等の官営事業の経営を所管する官省として工部省が創設され, 翌明治4年, いわゆる「10寮1司」の体制が整備された。当時の官省における「寮」は現在の「局」に相当し, 「司」はそれに準じる組織である。

講演では, 近代測量の黎明期に創設された, この工部省, 特に測量司と工学寮に着目する。工部省の組織には, 政府内にその前身組織を持つものが多かったが, 測量司と工学寮は官制上, 新設の組織であったことを特徴とする。

測量司の任務は「海陸を測量する事」とされた。測量司により東京府下の三角測量が実施され, これが後の内務省地理局による大三角測量等の測量事業に繋がっていく。測量司の創設と行政は, 産業の振興や公共事業を支えるという側面での現在の測量行政の端緒であったと理解されよう。工学寮の任務は「工学を開明する事」とされた。その下に工学校が設置され, これが工部大学校へと発展し, 後の帝国大学工科大学, 東京大学工学部へと繋がっていく。工学校や工部大学校での測量教育の体制は, 東京大学のみならず, 全国の大学・工学系学部のそれに多大な影響を及ぼしたと考えられる。

講演では, 以上のことを念頭に置きながら, 工部省, そして測量司, 工学寮の創設とその後の経緯を追い, それらを通して, 測量という観点から工部省の歴史的な意味を議論したい。なお, 工部省の創設に山尾庸三が大きな役割を果たしたことは知られているが, それは測量司, 工学寮の新設についても同様であった。講演では適宜, 山尾の足跡に光を当てながら, 話を進めていく。